

第11回系統別(工務)意見交換会開催!!



2月19日(日)目黒さつき会館にて「第11回系統別(工務)意見交換会」を開催しました。

①職場活動の強化に向けて

当日は事故発生から24年を迎える山手貨物線触車死亡事故の発生現場と、2006年に建立された「安全への挑戦を誓う碑」の現地踏査を行い、碑の前にて黙とうを捧げました。参加した青年部員からは「事故の内容は知っていたが、現地に立つことで色々と学ぶことができた」「初めて事故のことを学んだ。同じ地方の仲間にも伝えていきたい」と感想が出されました。杉本工務部会長からは「山貨事故では亡くなった見張り員にも罰金刑が下された。

命を守る人は、それなりの責任を負わされる」「この事故によって、線路の怖さを知った。山貨の事故が変えた」と、事故の真実や、痛ましい事故によって得ることができた教訓について語られました。その後の議論では「昨年発生したレール締結装置が外れていた事象について、カーブだったら脱線していた」「最近保守用車の事故が多い。足元解除もあった」「CBMによって作業を経験する機会が減った。技術力の低下も感じている」と、現在の工務職場における多くの不安の声も出されました。「責任追及から原因究明へ」の安全哲学のもと、こうした事故や事象に対して、東労組から安全議論をつくりだしていく必要性について参加者と確認しました。



②組織強化・拡大に向けて

全青年部員総対話やこの間のそれぞれの実践について出し合いました。「過半数代表者選に立候補。対象の未加入者を定め、社友会と労働組合の違い等を訴えてきた」「対象者と2年にわたり関わってきて、やっと過半数選で投票してくれるところまで来た」「総対話を受けてみて、ベア要求の根拠がよくわかった。今まではただ欲しいで終わっていた」と多くの教訓が出されました。またある職場では現場長が社員に対し「どっちに(票を)入れれば良いかわかっているよな？」と話していることが明らかになりました。こうした会社姿勢を許さず、意見交換会に参加したメンバーひとり一人が組織強化・拡大に向けて実践していくことを確認しました。最後に組織再編に向けて現場では既に動きが出ており、その中での課題や問題点についても集約し、次回の意見交換会で議論していくことを確認しました。



「責任追及から原因究明へ」の安全哲学のもと、職場から安全議論をつくり出そう!!

